

## 2023 年秋季研究発表会当番校を担当して (H. Aoji) [J]

2023 年 10 月 14 日、15 日の両日、京都府立大学稲盛会館他で行われた秋季研究発表会に関して、レポートします。

### ① 前日理事会から仄聞したこと

まず、前日 13 日に常任理事会、および理事会がおこなわれました。私にご挨拶さし上げただけで、翌日からの準備にもどりましたが、出席した理事から後ほど以下の話を聞きました。

この席上、春は東京、秋は東京以外の 9 地区支部の持ち回りで全国学会を開くシステムに困難が生じており、いくつかの地区には、もはや単独で全国学会を開く体力がないという主張がなされたようです。思えば、30 年前には 3000 人をこえていた学会員が、数年後には 1000 人を切るかもしれないといわれています。確かに京都支部も細っています。同規模で研究発表会を継続していくのは、困難な時期が来ているのかもしれない。

### ② 研究発表会は土曜の午後から

規模の縮小は、今回のプログラムにも反映しておりました。コロナ以前は、土曜日は午前、午後、日曜の午前と 3 ラウンドで、全国学会は運営されていました。ところが今回は、土曜は午後開始。このことは、あとに行う提言ともかかわってきます。これにより、会場設営は土曜の午前に始めました。

またポスター発表だけが、他の研究発表に先行して土曜の午後すぐに始まりました。会場を入口ホールに設定したので、黒山の人だかりとなり、まずは成功だったのではないのでしょうか。

両日の研究発表会では、A・B・C・D 会場となる教室を廊下をはさんで田の字状に 1 階に集めて配置することができました。これにより、複数会場間の移動に便宜をはかれました。ブース発表だけが 2 階となり、少し申しわけなかった気がしますが、会場の形状からこれはご寛恕を願いたいです。

書籍展示は 2 階でしたけれど、特に問題なくできたと思います。

2 日間でおおむね 300 名の参加者がありました。27 年前の大谷大学での京都学会には 800 名の参加があったそうですが、これは比べてみてもせん無いこと。およそ 4 人に一人の学会員がお越しくくださったという点では、同程度に盛況であったと言えます。

### ③ 盛況の懇親会

懇親会は、土曜日の夕方に近所のイタリアンレストランで行いました。常勤職 6 千円、非常勤職・学生 5 千円と比較的おさえた会費にしました。コロナあけ、4 年ぶりの懇親会で参加が悪いのではという心配も杞憂に終わりました。130 名近い方が、有料で入場して

くださいました。また、30名ほどいたアルバイト学生のうち20名ほどを招待し、ドリンク料金だけを人数分レストランに支払いました。おかげで会場はコロナ以前に劣らない大盛況となりました。また、若い人が多く入ったので、食事は無駄になることなく、きれいになりました。パーティーをするたびに感じる、世界の多くの地域の飢餓で苦しむ人々への後ろめたさは、少し和らぎました。

#### ④ 事前振込方式

今回は、参加料、懇親会費ともに振り込み方式を、会場受付と並行して行いました。事前振込はたしかに会場業務の負担軽減になりました。しかし参加料は、日本独文学会の徴収で、懇親会費は京都支部の口座への振り込みということで、何人かの方に混乱があったようです。これは、会員になれてもらうほかありません。

懇親会の事前申し込みが70名以上あったことは、数を読むうえで大いに参考になりました。主催者側が何より恐れるのは、赤字です。懇親会に関して言えば、いささか極論かもしれませんが、事前振込のみにすればとも思います。

#### ⑤ 各種団体による研究会

最後に、日曜日午後の各種団体による研究会に関してですが、一つ提言したいです。これらを当番校の負担で実施することを廃止してはどうでしょうか。ひとつには、このために、3時間以上、実行委員の先生方の拘束時間が長くなります。また、アルバイト学生も何人か残しておかねばならず、学会に費用負担が生じております。

その一方で、日曜日の午後から参加され、受付を素通りされる方が多くおられます。つまり、学会会場費を払わないいわばフリーライダーの方たちです。研究会の会場探しにはじまる雑務については、当該の研究会メンバー自身が行うのが普通です。現在行われている研究会の方々に、苦言を呈するつもりはありませんが、やはりこの事態はある種の特権と化していると思います。

日曜の午後の各種団体による研究会への会場貸し出しを廃止すれば、全国学会は土曜日の午前・午後の研究会とその後の懇親会で終了です。当番校の負担ははるかに軽くなります。

今後も持ち回りの体制での学会運営を維持するためにも、理事会でもご一考を願いたいです。

以上で、私のレポートを終わります。

理事会、京都支部実行委員をはじめとする皆様のおかげで、今回の全国学会を成功裏に追えることができました。皆様への感謝の言葉を結びとしたいです。ありがとうございました。

青地 伯水（京都府立大学文学部教授）

0199

作成日 : 2023/11/25